

杏林大学大学院保健学研究科
保健学専攻
博士後期課程入学試験
一般選抜 専門試験

令和7年8月9日 実施
試験時間 午後1時 ～ 2時

注意事項

1. 問題は1問です。
2. 字数の制限はありません。
3. 問題用紙は持ち出し禁止です。

問題

持続可能な開発目標(SGDs)と医療の関係について論述(または説明)してください。

【解答例】

持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs) は、2015 年に国連で採択された 17 の目標から構成され、2030 年までに「誰一人取り残さない (leave no one behind)」社会の実現を目指している。医療分野はその中心に位置しており、特に目標 3「すべての人に健康と福祉を」は直接的な関連を有する。しかしながら、SDGs と医療の関係は単に医療提供体制の充実にとどまらず、社会・環境・経済と密接に結びついた包括的概念として理解する必要がある。

まず、医療と SDGs の直接的関係として、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) の推進が挙げられる。これは、すべての人が経済的困難を伴うことなく必要な医療サービスを受けられる状態を指し、感染症対策、母子保健、非感染性疾患 (NCDs) の予防・管理などにおいて重要である。特に高齢化が進行する日本においては、医療と介護の統合的提供や地域包括ケアシステムの構築が、SDGs の理念と合致する課題である。

次に、医療は他の SDGs 目標とも強く関連している。例えば、目標 1「貧困の撲滅」は医療アクセスに直結し、経済格差は健康格差を生む要因となる。また、目標 6「安全な水とトイレ」は感染症予防に不可欠であり、目標 13「気候変動対策」は熱中症や感染症分布の変化など健康に直接影響を及ぼす。このように、健康は社会的決定要因 (social determinants of health) によって規定されるため、医療従事者には臨床だけでなく社会的視点が求められる。

さらに、医療自体も持続可能性の観点から見直されるべき対象である。医療は高度なエネルギー消費産業であり、医療廃棄物や CO₂ 排出の問題が指摘されている。したがって、グリーンホスピタルの推進や資源効率の高い医療提供体制の構築が重要である。また、過剰医療の是正やエビデンスに基づく医療 (EBM) の実践は、資源の適正配分という意味でも SDGs に資する。

今後の課題としては、SDGs の理念を医療教育や研究にどのように統合するかが挙げられる。単に知識として理解するだけでなく、複雑で答えのない問題に対して多角的に思考し、異分野と連携しながら解決策を模索する能力が求められる。特に保健医療分野の大学院教育においては、個々の患者を超えた集団・社会レベルでの健康課題に対応できる人材育成が重要である。

以上より、SDGs と医療は不可分の関係にあり、医療は社会全体の持続可能性の中で再定義されるべきである。医療従事者には、臨床能力に加えて社会的責任と広い視野が求められており、SDGs はその指針として重要な役割を果たす。

採点基準

① 基礎知識・理解 (20 点)

SDGs の基本概念 (17 目標の存在、「誰一人取り残さない」理念) および医療との関係 (特に目標 3) を正確に理解しているか。

② 医療との関連付けの深さ (25 点)

SDGsと医療の関係を単なる目標3にとどまらず、他の目標(貧困、環境、教育など)と関連付けて論じられているか。

③ 思考力・課題設定能力(25点)

未解決・複雑な問題に対して、自らの視点で論理的に考察し、課題や今後の方向性を提示できているか。

④ 統合力・応用力(15点)

医療分野と社会・環境・経済など異なる分野を統合的に捉え、広い視野で論述できているか。

⑤ 論述構成・表現力(15点)

論理構成(序論・本論・結論)が明確であり、簡潔かつ説得力のある文章で記述されているか。

【出題意図】

本設問は、受験者が持続可能な開発目標(SDGs)と医療の関係について、単なる知識の再生にとどまらず、多角的かつ統合的に理解しているかを評価することを目的としている。

第一に、近年の保健医療分野においてSDGsは重要な国際的枠組みとなっており、その基本概念および医療との関連についての理解は、大学院レベルの教育を受ける上で前提的知識と位置付けられる。本設問では、目標3に限らず、他の目標との関連性に言及できるかを通じて、健康の社会的決定要因(social determinants of health)に対する理解の深さを評価する。

第二に、SDGsは必ずしも明確な正解が存在する課題ではなく、価値観や立場によって多様な解釈が可能である。本設問では、受験者がこうした「答えの出ていない問題」に対してどのように思考を展開するか、すなわち論理的思考力、批判的思考力、課題設定能力を評価することを意図している。特に、医療と直接関係しない領域(環境、経済、社会構造など)との関連性をどのように位置付けるかは、応用力の指標となる。

第三に、保健医療系大学院に進学する者にとっては、臨床・研究に加えて、社会的責任や倫理観を有することが求められる。本設問では、SDGsというグローバルな視点を通じて、受験者が医療者としてどのような役割を果たすべきか、自身の考えを明確に表現できるかを評価する。

以上を踏まえ、本設問は、受験者の知識、思考力、社会的視野、および将来の専門職としての適性を総合的に判断するために設定されたものであり、保健医療系大学院入試として適切な課題であると位置付けられる。